

製品名: CD16 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08234**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用**希釈倍率** IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000**分子量****抗原情報**

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | FCGR3A CD16A FCG3 FCGR3 IGFR3 FCGR3B CD16B FCG3 FCGR3 IGFR3 |
| 別名 | |
| 遺伝子 ID | 2214.0 |
| SwissProt ID | P08637/O75015 |
| 免疫原 | AA 範囲: 100-150 のヒトタンパク質からの合成ペプチド |

背景

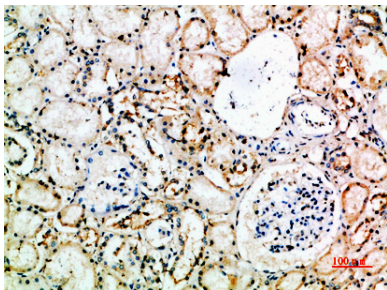
この遺伝子は、免疫グロブリン G の Fc 領域の受容体をコードし、抗原抗体複合体の循環からの除去をはじめ、様々な抗体依存性反応に関与しています。この遺伝子 (FCGR3A) は、1 番染色体に位置する近隣の遺伝子 (FCGR3B) と高い類似性を示しています。この

遺伝子によってコードされる受容体は、膜貫通ペプチドを介して固定された膜貫通型糖タンパク質としてナチュラルキラー（NK）細胞上に発現しますが、FCGR3Bは、受容体がホスファチジルイノシトール（PI）結合を介して固定された多形核好中球（PMN）上に発現します。この遺伝子の変異は、再発性ウイルス感染症、全身性エリテマトーデス、および同種免疫性新生児好中球減少症への感受性と関連付けられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションがいくつか見つかっています。[RefSeq 提供, 機能:IgG の Fc 領域の受容体。複合体または凝集 IgG だけでなく、単量体 IgG にも結合する。抗体依存性細胞傷害（ADCC）や貪食作用などの他の抗体依存性反応を媒介する。、その他:ほぼ同一の遺伝子である FCGR3A（ここに表示）と FCGR3B のいずれかによってコードされ、組織特異的に発現する。III-A の Phe-203 は膜貫通ドメインを決定し、III-B の Ser-203 は GPI アンカーを決定する。、オンライン情報:FCGR3A 変異データベース, 多型:アイソフォーム Val-157 は、アイソフォーム Phe-157 と比較して、IgG1、IgG3、および IgG4 に対する結合能が高い。アレル Leu-66 および Phe-157、およびアレル His-66 / Arg-66 および Val-157 は連鎖不平衡状態にある。、PTM: グリコシル化されている。高マンノース型および複合型オリゴ糖を含む。、PTM: 可溶性型はタンパク質分解によって生成される。、類似性: 2つの Ig 様 C2 型（免疫グロブリン様）ドメインを含む。、細胞内局在: 可溶性受容体としても存在する。、サブユニット: Fc イブシロン受容体 I ガンマサブユニットおよび / または CD3 ゼータサブユニットとヘテロオリゴマー受容体複合体として存在する。INPP5D/SHIP1 と相互作用する。、組織特異性: ナチュラルキラー細胞、マクロファージ、T 細胞サブpopulation、未熟胸腺細胞、胎盤栄養芽細胞に発現する。、

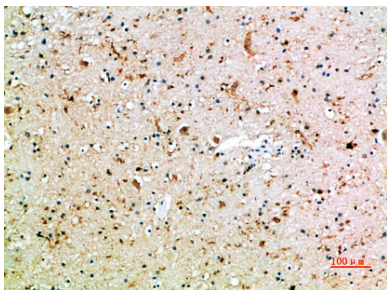
研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害作用、Fc ガンマ R を介した貪食作用、全身性エリテマトーデス

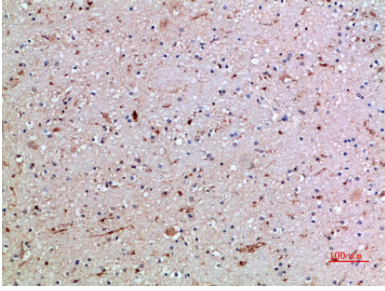
画像データ



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳 of 免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された